

心肺停止状態で来院した 劇症1型糖尿病の1例

春日部市立病院 内科

大川瑞穂、木曾原朗

野口尚子、宮典生

勝沼伸英、山岡健治、有馬健

はじめに

劇症1型糖尿病は2000年に今川らが提唱した糖尿病の新しい亜型の1つである。日本全体では年間40名以上が発症していると考えられているが死亡例は稀である。

今回心肺停止状態で来院した劇症1型糖尿病を経験したので報告する。

症例：32歳 男性

【主訴】意識障害、嘔吐、呂律が回らない

【既往歴】特記すべきことなし

【生活歴】喫煙歴：あり(詳細不明)

飲酒歴：ワイン1本+ビール大1本/日

職業：会社員

【現病歴】2007年5月11日頃より全身倦怠感・咳嗽といった感冒様症状が出現。5月16日からは嘔気も出現したため、近医を受診した。感冒の診断にて感冒薬を処方されたが、5月17日朝8時頃より出勤先にて呂律が回らなくなったため帰宅。自宅で様子を見るも症状が持続した。その後、倒れたため救急車にて午後4時来院した。

入院時現症

身長:不明.

体重:不明(痩せ型)

体温:37.2℃.

脈拍:触知せず

血圧:測定不可

意識レベル:JCS300

眼瞼結膜:貧血なし.

眼球結膜:黄疸なし

甲状腺:腫大なし.

腹部:平坦かつ軟

入院時血液検査

<血算>

WBC 32520/ μ l

RBC 388万/ μ l

Hb 12.7g/dl

Plt 17.6万/ μ l

<生化学>

GOT 86IU/l

GPT 46IU/l

LDH 276IU/l

γ -GTP 54IU/l

CK 1721 IU/l

T-bil 0.2mg/dl

T-cho 206mg/dl

TG 508mg/dl

BUN 68.4mg/dl

Cre 3.5mg/dl

UA 15.1 mg/dl

TP 6.3g/dl

Alb 4.1g/dl

S-AMY 231IU/l

<電解質>

Na 115mEq/l

K 8.6mEq/l

Cl 70mEq/l

Ca 9.2mg/dl

CRP 4.7mg/dl

血糖 1410mg/dl

HbA1c 5.8mg/dl

抗GAD抗体 0.3未満

<血液ガス分析>

pH 6.866

pCO₂ 50.3mmHg

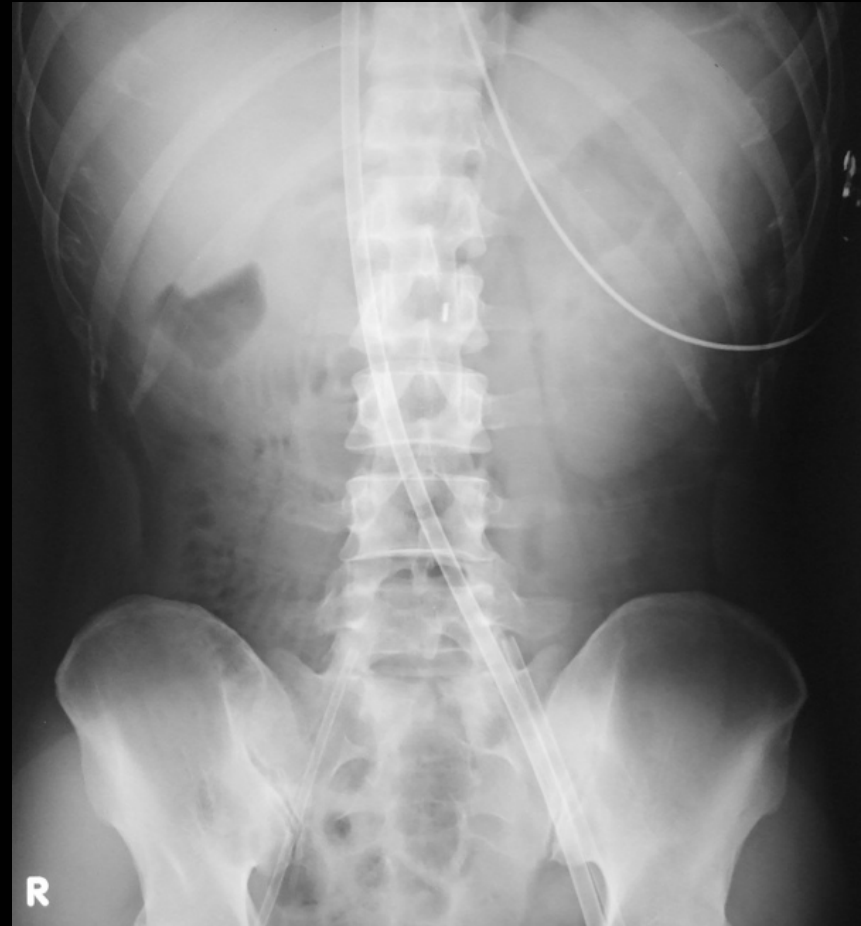
pO₂ 34.5mmHg

HCO₃⁻ 8.6mEq/l

TCO₂ 10.2mEq/l

BE -25.6mEq/l

入院時胸・腹部レントゲン



入院時CT



春日部市立病院 放射線科

劇症1型糖尿病の診断基準

1. 糖尿病症状発現後1週間前後以内に
ケトーシスあるいはケトアシドーシスに陥る
2. 初診時の(随時)血糖値が288mg/dl以上
であり、かつHbA1c値<8.5%である
3. 発症時の尿中Cペプチド<10mg/dayまたは
空腹時血清Cペプチド<0.3ng/mlかつ
グルカゴン負荷後(または食後2時間)
血清Cペプチド<0.5ng/mlである

経過

- ・救急室内に搬送中に心肺停止となり、心肺蘇生を開始
- ・経皮的な心肺支持装置(PCPS)導入後自己心拍再開
- ・生食の急速補液及びインスリンの持続静注投与を開始
- ・両側肺炎認め、イミペネム・シラスタチンNaを点滴
- ・翌日午前2時永眠

まとめ

心肺停止状態で来院した劇症1型糖尿病の1例

劇症1型糖尿病は進行が急であり診断、治療の遅れが致命的となる

このタイプの糖尿病の存在を認識することが重要